

ふるさと宅配便

舞鶴の近代化

時代とともに歩んだ遺産



舞鶴の近代化遺産

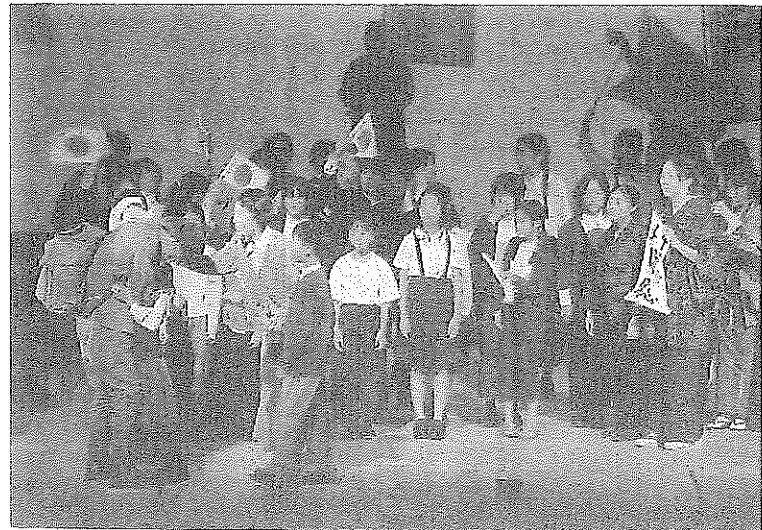
日本の歴史が大きく変革したのは、幕末から明治時代に起こった文明開化だといわれています。西洋からさまざまな文化や技術が取り入れられ、全国各地で産業や交通、土木などが著しく発展しました。特に産業は機械化が積極的に進められて生産性が大きく飛躍し、全国的に地域の経済は大きく発展しました。その一方で、機械化とは無縁の産業しかなかった地域は、文明開化から取り残され、その一つが私たちのまちでした。

子ども作品

平和音楽劇に込め

引き揚げ開始80年を記念した「平和祈念式典」が12日、舞鶴市浜の市総合文化会館で催された。小中学生による次世代のメッセージ、シベリア抑留や家族をテーマにした市民音楽劇も披露され、参加者は平和への思いを新たにしました。

今年で終戦80年、市所蔵 海上自衛隊舞鶴教育隊や海の引き揚げ関連資料が国連 上保安学校の代表らが、引き揚げ船「興安丸」の現存コの世界記憶遺産に登録される時鐘を鳴らした。市民音楽劇も披露され、参加者は平和への思いを新たにしました。



市民音楽劇で、引き揚げ者と家族が再会する場面
(舞鶴市浜・市総合文化会館)

舞鶴で祈念式典「引き揚げから目を背けない」

望は次世代による継承にある」と述べた。来賓の文化庁の都倉俊一長官は「父親がシベリアから舞鶴に引き揚げてきた。生き延びて帰ってくるのが奇跡だと言っていた」と、家族の体験を紹介した。

中学生約140人による、引き揚げ者を出迎える際に歌われた作品の合唱、市民らを中心とした制作した折り鶴アート(高さ2・7メートル1・8メートルも披露された。市民音楽劇「海のその先」は、戦場から帰ってこない夫や息子を持つ家族と、引き揚げを受け入れる舞鶴の人々に焦点を当てたオリジナル物語。出演者約100人の迫力ある演技に大きな拍手が送られた。

次世代からのメッセージを発表した若浦中3年の山本颯姫さん(15)は「悲惨な歴史から目を背けるのではなく、若い世代が歴史を発信していくことが、命の大切さや戦争など、知識が広まってほしい」と話した。

新「白鳥トンネル」開通 東西舞鶴結び 歩道設置



◆市の東西を結ぶ府道小倉西舞鶴線の新しい「白鳥トンネル」(清道一森)が開通した。式典や通り初めが行われ完成を祝った。

既設トンネルの北側に開通した新トンネルは長さ333メートル、1車線だが、道路幅が10・7メートルと既設トンネル(6・8メートル)より広く、歩道も設けた。今後、既設トンネルは通行止めにして拡幅工事を行い、将来的に4車線化する。

開通記念式典で西脇隆俊府知事は「舞鶴市の東西を結び、地域の生活道路としての役割を担う極めて重要な路線。安全で快適な通行が実現し、産業の活性化につながる」と期待する」と話し、鴨田秋津市長は「市民にとって念願の開通。渋滞が緩和される」と述べた。

首相、造船で米と連携

舞鶴視察「砕氷船に優位性」

石破茂首相は25日、舞鶴市の海上自衛隊基地や造船大手「ジャパンマリンユナイテッド（JMU）」の舞鶴事業所などを視察した。視察後、記者団に「国際競争力を維持しながら、物流を支える日本の造船を支援していきたい」と述べ、中国や韓国が高いシェアを持つ造船業について、国が主導して復活を目指し、米



造船会社での懇談後、記者の質問に答える石破首相＝25日午後、舞鶴市（代表撮影）

と積極的に連携する方針を表明した。首相はJMU幹部らとの懇談に明け、「私が子どもの頃は日本の造船業はすごく伸びて、世界一と言われた時期もあった。日本の強みを生かし、脱炭素化船など新しい分野に果敢に挑ん

でいかねばならないという話を聞いた」と語った。その上で、砕氷船は日本の技術に優位性があると強調。北極海航路を見据え、日米で協力して取り組む意向を明らかにした。「アメリカが関心を持っている」として、米軍艦の日本での修理を政府が後押しする方針も打ち出した。造船分野での協力を米政権の高関税政策を巡る交渉の材料にしたい考え。

トランプ大統領が日本製

南野陽子さんから稲刈り 舞鶴・室牛

収穫した稲を稲木に干す南野さんと交流しながらスマホに写真を撮る住民ら（舞鶴市室牛）



歌手で俳優の南野陽子さんから音楽家が11日、舞鶴市室牛地区で自身が植えた「コシヒカリ」の稲刈りを行った。地域の住民や小学生との交流を楽しみ、農業の魅力を体感していた。音楽プロデューサー・宗本康兵さんの呼びかけで、2022年からこの地域で米作りを行っている。この日は、南野さんや人気バンド「グスの極み乙女」の休日課長さん、歌手のきただにひろしさんが稲刈りに集まった。5月の田植えに参加した住民や、地元の大浦小5、6年生18人も参

音楽家、地元住民と交流

4人は住民らと一緒に、約5坪の田で鎌を使って手刈りし、束ねて稲木に干した。昨年までは成熟時期の関係で、田植えした箇所と別の田で稲刈りをしていったといい、宗本さんは「今年初めて自分たちで植えた田んぼで稲を刈ることができ、面白かった。まっすぐに植えられていなかったり、束が太かったりして、来年は均等に植えたいです」と話していた。大浦小6年の岡山海風人さん（11）は「手刈りは大変だった。疲れたけど良い体験だった」と楽しんでいた。

（芳賀葵）

映画「国宝」ロケ舞鶴で

大ヒットし、社会現象となった映画「国宝」。京都市の南座や先斗町歌舞練場などがロケ地になったことで知られているが、実は舞鶴市でも重要な場面が撮影された。メインのロケ地ではないため市はPRしにくいというが、地域住民は歴史に残る作品のワンシーンに刻まれたことを歓迎している。

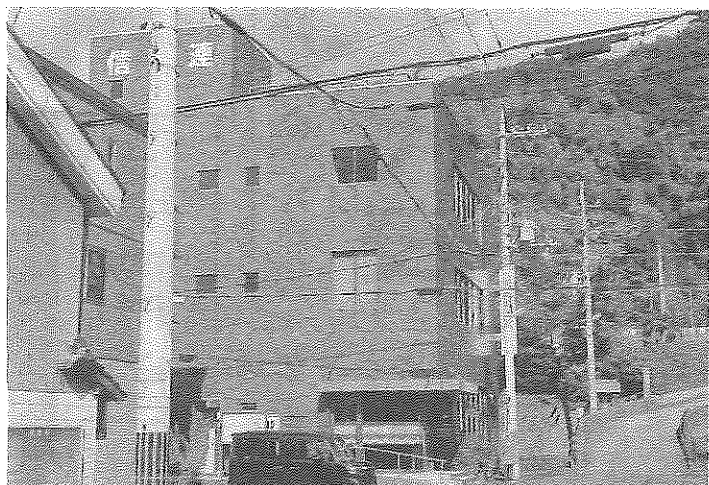
「国宝」は、吉沢亮さんのロケ地は「聖地巡礼」人演じる主人公が歌舞伎として訪れるファンでに身をまかせる物語。13日時点で興行収入162億円を超え、来年度の米アカデミー賞国際長編映画賞部門の日本代表に選出された。京都市や大津市

「国宝」は、吉沢亮さんのロケ地は「聖地巡礼」人演じる主人公が歌舞伎として訪れるファンでに身をまかせる物語。13日時点で興行収入162億円を超え、来年度の米アカデミー賞国際長編映画賞部門の日本代表に選出された。京都市や大津市

監督ら銭湯で休憩 大ヒット、住民歓迎



映画「国宝」のロケに使われた一軒家とビル（ともに舞鶴市東吉原）



銭湯「日の出湯」に飾られた幸柿田監督のサイン（色紙）（舞鶴市東吉原）



吉原の良さは、もっと知ってもらいたい」と千原さん。撮影の際、出演者やスタッフが休憩に使ったのが銭湯「日の出湯」（東吉原）の広間。入り口付近に幸柿田監督のサイン色紙が飾られており、入浴に訪れた観光客がロケ地だと知ることもあったという。経営する高橋一郎さん（76）は「そんなにすごい映画になるとは思っていなかった。アカデミー賞が取れるようにみんなが応援してくれ」と目を細める。

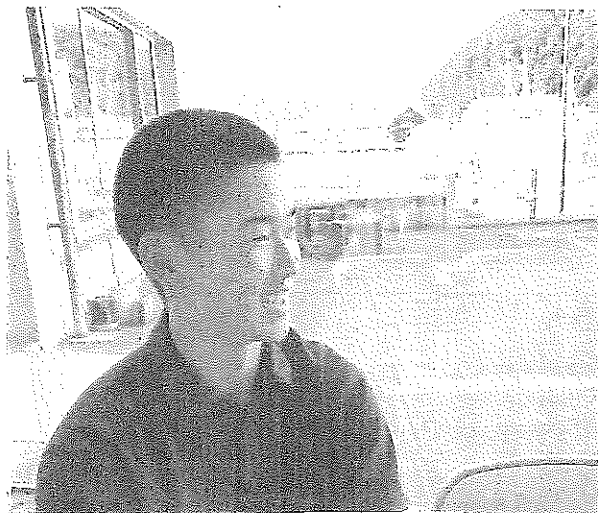
「国宝」は舞鶴八千代館（浜）でも上映中。8月の上映以降、いまだ客足が途絶えず、終映は未定だという。

甲子園準優勝

白糸中出身 松永選手が凱旋帰鶴

夏の甲子園出場20回を誇る日大三高は、誰もが認める東の名門校。部員75人の大所帯ではベンチメンバーに名を連ねることさえ難しい中、松永さんは中心選手として大活躍。主に一番ライトで出場し、守備範囲の広さと強肩、俊足を生かした果敢な走塁が特徴だ。地方大会では4割8分と圧倒的な打棒を發揮。甲子園でも勢いは止まらず、23打数9安打、3割9分1厘の高打率を残し、出塁率は4割超えとチーム躍進への貢献は計り知れない。

この活躍について松永さんは、「最後の夏。思いきってやるだけだった。思い切りぶつ



かつて、失敗したら仕方がないという吹っ切れた気持ちで臨めたのがよかった」と振り返り、「互いに信頼し合い、全員が一つになった結果です」と胸を張った。

広陵高の辞退で揺れた今大会、強豪校の在り方が問題にもなった。しかし、松永さんらが日夜暮らす日大三高の「三志寮」は、伝統的に「後輩優先」の文化が根付くのだという。掃除は上級生が率先して行い、キーキ等の差し入れがあれば1年生が先に選べる。2023年から指揮を執る三木有造監督を頂点に、大きな家族のような同部。今回の準優勝は、監督の1期生になる松

日本中が酷暑に包まれたこの夏、阪神甲子園球場では球児たちの熱い戦いが繰り広げられた。好試合が続き、記憶に残る大会として幕を閉じた第107回全国高校野球選手権大会は、決勝戦で沖縄尚学が日大三（西東京）に3-1で勝利し初優勝を果たした。敗れたものはつらつプレーで感動を呼んだ日大三高には、市内出身の松永海斗さん（18）＝写真＝が在籍。熱戦の興奮冷めやらぬ中、凱旋した松永さん取材した。

日大三高で不動の1番

出塁率4割超えで大躍進に貢献

年の時。きつかけは10歳上となる兄の影響だった。当時は舞鶴東スポ少に所属し、投手を務めていた松永さん。原石の輝きを感じた指導者から「もっと広い世界を見て、強豪の中でもまれたらどうか」と勧められ、関西名門の強豪チーム「枚方ボーイズ」に参加することになった。母一人子育てをするしのおさん（53）と、毎週金曜日の夜になると大阪のアパートに移動する2拠点生活を送った。

もと交流する場を積極的に設定してほしいなどと求めた。これに対し、鴨田市長は「重く受け止める。子どもの教育環境整備を第一に考え、要望に添えるようしっかり対応する」と答えた。

市教委は10月20日、人口が急減する将来を見据えた「学校規模適正化ビジョン」を策定した。市内の小中学校の児童・生徒数は1957年の2万1398人をピークに減り続けており、2025年度は5395人。20年後の45年度には約3600人になる見込み。今後、地域に入り、現実の数字を基に話し合いを重ねていく方針。

現在、舞鶴市には市立小学校は18校、中学校は7校ある。市教委によると、複式学級が今後見込まれる7小学校について優先的に統合を検討する方針。また、クラス替えができない3中学校について、統合を見据えた適正規模化を検討する。

明倫小への吉原小統合 舞鶴市長に要望書



鴨田秋津市長（右）に要望書を手渡す鍵本秀和会長＝舞鶴市役所で

舞鶴市立吉原小の保護者や地元自治会長らでつくる「子どもの未来を考える会」の鍵本秀和会長（47）は27日、吉原小を2027年度に明倫小に統合するよう求めた要望書を鴨田秋津市長と広瀬直樹教育長に手渡した。

吉原小の児童数は28人。1、2年生の学級が複式となっている。24年度の吉原小PTA会長を務めた鍵本会長によると、吉原小の児童数が減少の一途をたどる中、適正規模の教育環境についてPTAとして話し合いを重ね、25年1月19日のPTA総会で全会一致で明倫小への統合を求めるとを決議した。

さらに、地域の声を聞こうと、地元自治会などにも参加した「子どもの未来を考える会」を5月に発足させ、校区の全世帯（349世帯）に明倫小への統合の賛否を問うアンケートを実施。83・1％から「賛同」を得た。その後、2回にわたって地域説明会を行い、9月30日の総会で「統合を全会一致で決議した。鍵本会長は鴨田市長と広瀬教育長との懇談で「安全・安心に明倫小に通える通学路・通学手段を確保してほしい」と吉原小の閉校後は学校施設を残し、地域で活用できるようにしてほしい」と吉原小の子どもが明倫小の子と



伝統的な製法で作られた本みりんは大分県産のユズ果汁を加え、最高級品の羅臼産昆布やかつお節のだしで味を調える。塩や砂糖を使わないため、「うまみでしつかり味をまわっている」。だしを余すことなく味わってもらうため、昆布やかつお節は、こまめに瓶に詰めた。

手作りして販売するポン酢「ツボポン」は、原材料にこだわったため、1本（125g）2980円。テレビなどでは「日本一高いポン酢」として紹介されたという。

普段は、障子やふすまの新調や張り替えを行う表具店の従業員。ポン酢を作り始めるきっかけは、長男の野菜嫌いだった。

長男が3歳の2016年、

「日本一高いポン酢」を作る表具店従業員
つばうち たいし 壺内 武志さん(37) 舞鶴市城屋



手作りの高級ポン酢を売り出している壺内さん（舞鶴市下福井・道の駅舞鶴港とれとれセンター）

「子のため」から縁広がり

ろ、サラダスティックと市販のポン酢を出してみると、嫌いなニンジンを進んで食べるようになった。「もつと健康的なおいしいものを食べてもらいたい」と、うまみがありつつもきつ

「子のため」から始めたポン酢づくりだったが、6年で多くの人に届くようになった。これまでの道のりは「棚ぼた」で、「ポン酢のおかげで人との縁が広がっている感覚がある」と話す。今は九州の甘いしょうゆに興味があるという、現在の商品と対照的な「甘めのポン酢もこだわって作ってみたい」と意欲を示している。

表具店の仕事で培った技能が生かされる場面も。かつお節を削る作業は、かなで木材の表面を削る作業を応用し、自ら行っている。削り器も、かなを使っている。23年から本格的にネット販売を開始し、24年の「調味料選手権」（日本野菜ソムリエ協会）で入賞。183点中50点の最終審査に残り、他の応募賞品と一緒に阪神梅田本店に並ぶ機会も得た。

子どものために始めたポン酢づくりだったが、6年で多くの人に届くようになった。これまでの道のりは「棚ぼた」で、「ポン酢のおかげで人との縁が広がっている感覚がある」と話す。今は九州の甘いしょうゆに興味があるという、現在の商品と対照的な「甘めのポン酢もこだわって作ってみたい」と意欲を示している。

壺内 武志 さんは、中高卓球部のOB（現18歳）で、舞高卓球部OBGレポートの制作メンバーの1人です。



戦後
80年
京滋

舞鶴空襲 最後の慰霊祭

太平洋戦争末期の米軍機による舞鶴空襲から80年となる29日、舞鶴市余部下の共楽公園にある「舞鶴空襲学徒犠牲者慰霊碑」前で最後の慰霊祭が行われ、「人が人を殺し合うことだけは絶対にいけない」との思いを込めて、空襲の体験者の親族や市民ら約40人が参列し、花を手向けた（29日午前11時40分、舞鶴市余部下） —23面に記事

3000人 海沿い駆け抜け



海上自衛隊の応援を受けながら走る選手たち（舞鶴市北吸・海上自衛隊北吸棧橋）

舞鶴赤れんがハーフマラソン

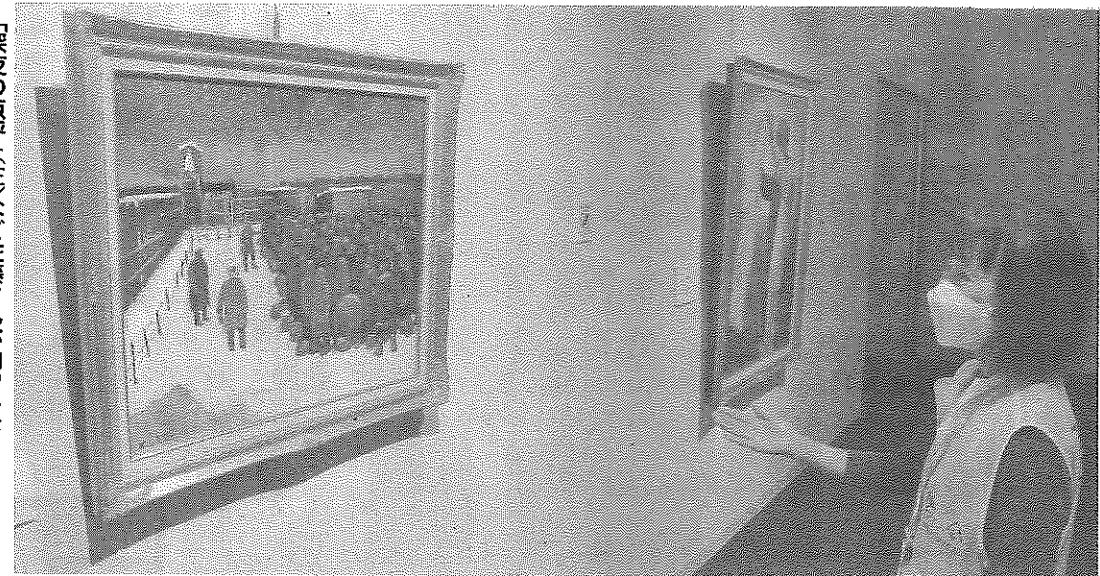
舞鶴市で13日、「舞鶴赤れんがハーフマラソン2025」が開かれた。全国から集まったランナーが、赤れんが倉庫群や海上自衛隊基地内を巡るコースを駆け抜けた。

倉庫群・造船会社内も

抑留の記憶 絵画で伝え

舞鶴引揚記念館、故佐藤清さん生誕100年企画展

「深夜の点呼」など佐藤清さんが抑留を描いた作品が並ぶ企画展の会場＝舞鶴市平・舞鶴引揚記念館



極寒の収容所や捕虜生活

舞鶴市平の舞鶴引揚記念館で、抑留体験者で画家の故佐藤清さんの生誕100年を記念した企画展「北斗星のもとに」が開かれている。写真や映像のほかに抑留を伝えるのに貴重な記録画の収集にも大きな役割を果たした佐藤さんが描いた、抑留の記憶を伝える油彩画とペン画計17点が並ぶ。

佐藤さんは1925年に福島市に生まれ、召集され渡った満州で終戦を迎えた。シベリアに抑留され、47年に舞鶴に帰還。美術大を卒業し、建築士として働く傍ら画家として活動。2014年に亡くなった。

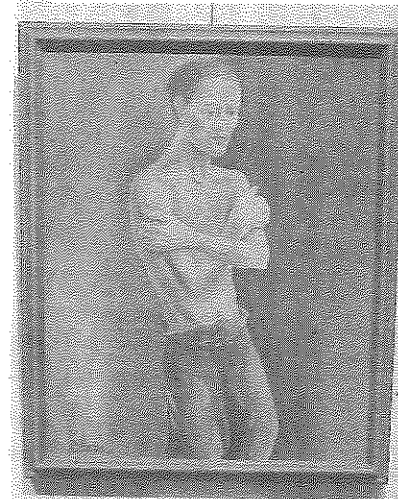
会場には、満点の星空が広がる極寒の収容所で点呼を強いられる「深夜の点呼」や、栄養失調でやせこけた男を描いた「二冬を越した捕虜」などが展示されている。

企画展のタイトルは、佐藤さんが生前、抑留画を残すのはシベリアの北斗星の下で眠る戦友たちへの鎮魂の思いからだと言っていたことにな

る。会場には、満点の星空が広がる極寒の収容所で点呼を強いられる「深夜の点呼」や、栄養失調でやせこけた男を描いた「二冬を越した捕虜」などが展示されている。

佐藤さんは、同館が1300点の記録画を収集するきっかけを作った人物でもある。最初の関わりは、戦後50年を記念して舞鶴市が同市と京都市で開催した「シベリア抑留画展」。抑留を経験した画家に声を掛けたり、美術館に協力の依頼をしたりと奔走した。その後も舞鶴との関係は続き、晩年には記録画の引揚記念館への寄贈を仲間に呼びかけていたという。学芸員の長嶺睦さんは「彼がいなければこれだけの記録画は集まっていなかった」と話す。佐藤さん自身も81点を寄贈した。戦後80年を迎えることを踏まえ、長嶺さんは、「これらの体験者なき時代において、見るだけで強い印象や衝撃を与える絵の役割はますます大きくなっている」として功績を強調する。

企画展は7月6日までの午前9時～午後5時。水曜休館。要入館料。（菅井渉大）



やせこけた抑留者を描いた佐藤さんの「二冬を越した捕虜」